

南極研究観測 シンポジウム

次世代の南極観測に向けて

次世代の南極観測事業計画を検討するために、新しい南極観測船が就航して2年目となる第52次南極観測（2010-2011年シーズン）

以降10年程度の期間に、南極地域及びその周辺海域で実施を目指している研究者からのニーズや観測計画のシーズを求めています。



- 【主催】：国立極地研究所
- 【開催日】：平成19年6月15日（金）
- 【会場】：国立極地研究所6階講堂
- 【申込締切】：平成19年5月25日（金）必着
- 【申込・問合せ先】：〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10
- 国立極地研究所 南極研究観測シンポジウム事務局（担当・田口 真）

TEL: 03-3962-4729 FAX: 03-3962-5742 E-mail: JARE-sympo2007@nipr.ac.jp

南極研究観測 シンポジウム

日本の南極観測は半世紀前の国際地球観測年（1957/1958年）を契機に開始され、一時期中断がありました。1965年の観測再開以後は連綿と継続され現在に至っております。本年は、また、国際極年（2007/2008年）がスタートし、極域科学に関する幾多の国際プロジェクトが推進されています。

近年、南極観測をとりまく社会環境と科学技術には大きな変化がありました。例えば、4年前に昭和基地にインテルサット衛星通信システムが導入され、昭和基地－日本間は常時高速データ通信回線で接続されるようになりました。現在の「しらせ」に代わる新しい南極観測船が2年後に就航します。また、新しい輸送手段として、航空機による昭和基地へのアクセスも視野にはいつてきました。

このように南極観測の基盤の変革が進みつつある中、国立極地研究所は、次世代の南極観測に向けて、研究観測の方向を把握することが重要と考えて、本シンポジウムを企画しました。新しい南極観測船が就航して2年目となる第52次南極観測（2010-2011年シーズン）以降10年程度の期間に、南極地域及びその周辺海域で実施を目指している科学研究観測計画に関する発表を広く募集します。観測計画の科学分野、規模、時期、期間、現時点での実現可能性や経費等は問いません。従来の南極観測にとらわれない新しい提案を歓迎いたします。

このシンポジウムで示された研究者からのニーズや観測計画のシーズをもとに、次世代の南極観測事業計画を検討していく予定です。

■【申込方法】

- 「申込書」を平成19年5月25日（金）までに南極観測シンポジウム事務局（JARE-sympo2007@nipr.ac.jp）宛にお送りください。申込書受領後、確認のための返信メールをお送りします。もし返信メールが届かない場合にはご連絡下さい。
- 申し込みが受理された方には、口頭またはポスターによる発表をしていただきますが、時間の関係で、口頭発表のご希望に必ずしも応じられない場合があります。
- 「集録原稿」（A4用紙、最大でも8頁以内とする。上下左右マージン15mm、形式自由）をシンポジウム当日までに（JARE-sympo2007@nipr.ac.jp）宛にお送りください。

- 詳しくはホームページをご覧ください。

URL: <http://www.nipr.ac.jp/info/notice/nankyokusympo.pdf>